

2015年9月 定期報告と次月度以降の活動予定

活動日誌

9月	1日	栃木県生協連憲法学習会・とちぎ消費者カレッジ自治医科大学
	3日	NPO法人消費者市民ネットとうほく視察・とちぎ地産地消県民運動実行委員会幹事会
	5日	いわき四倉ボランティアお茶会
	7日	くらし部会
	8日	常務理事会
	9日	日生協 2015年度都県連災害対策担当者交流会
	10・11日	6県連合同業態研修会群馬県
	15日	消費者ネットワーク幹事会
	17日	食の安全ネットワーク全体会・栃木放送番組審議会
	18日	食と農をつなげる会打合せ
	26日	生協総研研究集会
	27日	もったいないフェア宇都宮 2015
29日	第2回中央地連運営委員会	
10月	1日	生物多様性を育む農業国際会議実行委員会、MCA無線訓練
	4日	うつのみや食育フェア
	7日	関東甲信越行政生協関係連絡会
	8日	栃木県生協連沖縄問題学習会
	12日	とちぎ消費者カレッジ作新短大
	13日	消費者ネットワーク学習会
	15日	栃木県次期プラン策定懇談会
	16日	食の安全ネットワーク世話人会
	17日	いわき四倉ボランティアお茶会
	20日	理事会
	22日	とちぎ食品安全フォーラム
	25日	平成27年度栃木県・県央地区災害対応訓練
	27日	とちぎ消費者カレッジ作新短大
	29日	栃木県消費生活安定対策審議会
30日	理事長専務会議	
11月	5日	とちぎ消費者カレッジ作新学院大学
	6日	理事・職員定期学習会
	10日	常務理事会
	12日	栃木県食品安全セミナー
	17日	栃木県生協連原発再稼働学習会
	26日	とちぎ消費者カレッジ栃木県農業大学校

【9月の振り返り】

◇ネットワーク活動

- 1日 とちぎ消費者カレッジ 自治医科大学開催
- 17日 食の安全ネットワーク学習会 『「機能性表示食品」の制度と課題』 講師：日生協安全対策推進室室長 鬼武一夫氏

◇県連活動

- 1日 憲法学習会 講師：伊藤塾塾長・日弁連憲法問題対策本部副本部長・弁護士 伊藤真氏

◇被災地支援

- 5日 いわき四倉ボランティアお茶会

以上

県連活動

1. 機関運営

- 8月11日(火)、2015年度第2回理事会を開催しました。
- 9月8日(火)、2015年度第2回常務理事会を開催しました。

2. くらし部会

- 9月7日(月)、第3回くらし部会を開催。10月4日に行われる「第10回うつのみや食育フェア」の出展内容を話し合いました。今年度のサブテーマは「楽しく知ろう食のチカラ もっとおいしく もっと健康に!」。生協連では例年通り城址公園に出展し、パネル展示とクイズの出題を行います。また、参加予定の「ECO テック&ライフとちぎ 2015(12月開催)」の出展計画をすすめています。
会員生協の活動報告では、地域生協の報告と、日本生協連・中央地連から、8月30日の国会前行動に複数の生協人と参加したことなどが報告されました。
- 9月18日(金)、2015年度 食と農をつなげる会 第1回代表者会議を行い、今年度は12月7日(月)13時より、学習会と分散会を行うことを確認しました。昨今、サプリや機能性食品から栄養素を摂るという考えが広まっていますが、和食(日本文化)のように「きちんとした食事」から栄養素を摂る事の大切さに気付くことができるようすすめます。学習会は「(仮)我が国の食[農]の戦後史・講師: 民間稲作研究所 齋藤一治氏」を予定しています。

3. 県連学習会

- 9月1日(火)、平和の取り組みの一環として「伊藤 真 弁護士」を講師に「いま、憲法を考える～わが国を『戦争する国』にしないために～」を開催し、約80名が参加しました。現憲法や立憲主義について分かりやすく説明していただき「とても分かりやすかった。歯切れの良いお話しに引き込まれました。集団的自衛権や憲法がよく理解できた。」「日本国憲法は世界に誇れる一歩先に世界を考えた法だということを再確認しました。主体的に生きること、不断の努力で平和を作ること、大事なことを考えた時間でした。」「憲法を理解する上で重要なこと<他者への共感><相手の立場に立つこと>が大切で、沖縄のことなどに対する想像力を得るためには、やはり学んだり、行動することが大切だと思いました。」などのアンケートをいただきました。今後あきらめずに声を上げる、選挙に行くなど行動していく、等も記入されていました。伊藤先生は昨年につき2回目の講演ですが「2回聞いた事で、より理解が深まり、新たに気づいたこともある」という声もいただき、有意義な学習会となりました。

4. 行政関係

<懇談会・審議会への参加>

- 8月7日(金)、栃木県県民生活部くらし安全安心課と意見交換会を実施しました。県連からは会長理事をはじめ16名が参加。くらし安全安心課からは課長板橋様、室長桜井様、主事佐久間様(交流会に主幹兼課長補佐松川様)が参加し、以下の様に生協への期待が述べられました。
 - ① 消費者団体の中核としての役割…リーダーシップの発揮、情報提供、地域とのつながり
 - ② 消費者行政との連携…消費者基本計画(仮)の策定、ネットワーク活動、食の安全安心、災害協定見直し
 - ③ 健全な生協運営 など県連からは、2014年度の活動報告、2015年度の計画と、8単協(学校生協、生活クラブ、よつ葉生協、保健医療生協、全労済、県職員共済、とちぎコープ)から活動報告を行いました。今後も互いの理解を深めながら、協働の取り組みをすすめていきます。
- 8月4日(火)、第4回栃木県次期プラン及び地方創生総合戦略策定懇談会に竹内会長理事が参加しました。議題は、栃木県版「まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。
- 8月27日(木)、栃木県とちぎ食育推進連絡会に竹内会長理事が参加しました。
- 9月3日(木)、とちぎ地産地消県民運動実行委員会幹事会に、高橋顧問が参加しました。
- 8月3日(月)、平成28年度、小山市生活支援・介護予防体制整備にむけた説明会に参加しました。介護事業者、シルバー人材、NPO団体等、56名の参加でした。内容は、生活支援体制整備事業を活用し、互助を基本とした生活支援等サービスが創出されるようすすめるため、協議体につなげる研究会を立ち上

げ、小山市の高齢者の現状把握、共有や、課題や問題点の把握、要支援者に向けたサービスの創出等について検討を行います。

〈その他〉

- 9月17日(木)、栃木放送番組審議会に、委員として竹内会長理事が出席しました。
- 8月30日(日)、平成27年度 栃木県・小山市総合防災訓練開催。栃木県、小山市と災害時協定を締結しており、計25名が応援物資供給訓練に参加しました。小雨の中、よつ葉生協から9名/車両3台、とちぎコープから11名/車両5台、計20名/8台の参加、その他、栃木保健医療生協の2名がテントで血圧測定を行い、約100名の測定を行いました。
- 8月4日(火)、栃木県主催・放射性物質と食に関する理解促進セミナーに参加しました。8組の親子の参加者のうち、地域生協からも組合員親子3組が参加し、講話の他にゲームや実験など、体験を通して放射性物質と食について学びました。
- 9月27日(日)、宇都宮市が主催する「もったいないフェアうつのみや」に参加しました。

5. その他

- 適格消費者団体研究会…9月3日(木)、NPO法人消費者市民ネットとうほく(仙台)へ、消費者ネットワークメンバーと弁護士4名の12名で視察を行いました。ネットとうほくは、適格消費者団体として認定されることを目指し、現在活動中の団体です。弁護士、司法書士、大学教授、NPO、消費者相談員等で構成され、宮城県生協連が事務局を務めています。適格消費者団体として申請する前段階での活動内容や、必要事項、経費など、具体的な内容を教えていただきました。陪席させていただいた被害等の事例報告会では、活発に意見交換が行われていました。今回の視察を受け、今後の栃木県内での活動について、研究会で話し合いをすすめます。
- 9月9日(木)、日生協2015年度都県連災害対策担当者交流会に参加しました。
- 9月10日(金)11日(土)、6県連合同業態研修会(群馬)は豪雨災害により参加を中止しました。
- 9月26日(土)、生協総合研究所 第25回全国研究集会～提言:2050年超高齢社会のコミュニティ構想～に、会長理事他4名が参加しました。

ネットワーク活動

1. とちぎ食の安全ネットワーク

- 8月20日、とちぎ食の安全ネットワーク第3回世話人会を開催しました。7月16日に開催された「続・初めてのHACCP講座」のアンケート集約結果の報告や、この秋に開催されるフォーラムや学習会
①10/22「第14回とちぎ食品安全フォーラム・知ろう、防ごう、食中毒～正しく知って食中毒を防ごう～」、
②11/12「食品安全セミナー・輸入食品の安全性について」、③12/3「食品安全セミナー・食品添加物と食品の安全性について」等の計画について話し合われました。
- 9月17日(木)、2015年度第3回全体会を開催。「日生協品質保証部、安全政策推進部の鬼武 一夫氏」を講師に「新たな食品表示制度と機能性表示の食品について」の学習会を行いました。特に、新たに加わった機能性食品の概念や表示について、その問題点を分かりやすくお話いただき、理解を深めることができました。

2. とちぎ消費者ネットワーク

- 9月15日(火)、2015年度第4回幹事会を開催。「最近、相談を受けた消費者問題事例」について、服部有弁護士を講師に学習会を行いました。その他「ネットとうほく視察」の報告、消費者カレッジの進捗状況、各団体からの活動報告を行いました。10月13日の消費者問題学習会は、小倉弁護士を講師に「奨学金制度の問題点」について学びます。
- 9月1日(火)、今年度3回目になるとちぎ消費者カレッジを、講師・山口 益弘 弁護士「消費者被害の実証から学ぶ」をテーマに自治医科大学で開催し、125名が参加しました。事例を挙げての具体的な説明に、学生たちは真剣に聞き入っていました。アンケートには「詐欺などについて、具体的な例を用いて説明して頂き、とても分かりやすかった。先入観にとらわれないことも大切であると知りました。センターに相談す

ると、しっかり対応して頂けるようで今後も注意するとともに頼りになると思いました。」「消費者被害について、あまり考えた事がなかったが、今回の講義を聞いて、とても身近な話なんだということに気付いた。」「無意識のうちに自分もたくさんの契約を交わしていることに気づいた。自分もトラブルに巻き込まれる可能性があることを忘れずにいたい」「医学部の学生の中には、卒業後給料が出るとマンション購入のダイレクトールがくる人がいるそうです。自分で事例や対処法を知らないと今時は生きていられないですね。」などがありました。次回は10月12日(月)作新大学女子短期大学部にて開催します。

震災支援活動

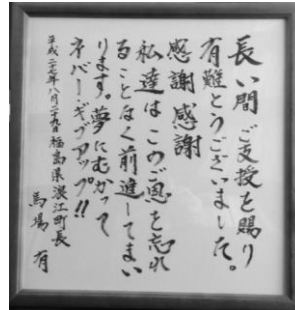
1. 関東・東北豪雨被害、支援報告

- 別紙報告をご覧ください。

2. 東日本大震災、福島第一原発事故避難者支援「お茶会」の取組み

- 8月29日(土)16時～、「第46回ふれあいお茶会最終回 納涼祭」を開催しました。当日は、いつもの参加者に加えて浪江町長 馬場 有 氏や町議も訪れ、お茶会へ感謝の言葉をいただきました。また、後日、馬場町長さんから、手書きの色紙が届きました。

特別養護老人ホームみどり 地域交流室 にて
 参加者:63名 スタッフ19名 合計82名
 内訳…避難者32名(内子供8名)・浪江町長様・浪江長議会議員様3名・浪江町支援課長野様、子育てサロンみどりの皆さん12名・ふれあいコープの皆さん10名・スタッフ大人19名、スタッフの子共4名



馬場町長さんからの色紙



吉田代表がデザインしたタオルに皆で寄せ書き

2011年9月より、月に一回継続してきた「ふれあいお茶会」は今回で最終回となりました。

栃木県に避難されてきた方々も、帰還されたり、新しく居を構えたりと、それぞれの岐路に来ています。開催当初の目的である「①参加者同士をつなげる」「②情報交換の場」として、一定の役割は終えたとの判断から、第46回を持って一区切りとすることにしました。

参加者からは「月に一度の楽しみだった」「また年に一度くらい集まって、近況報告をしたらどうか」などの声もあり、持参されたお菓子やせっけん、手作り品などを渡し合っていました。

納涼祭では3つ目の目的「③楽しいひと時を過ごしていただく」を一番に、以下を行いました。

- ・ボランティア「ピュアリズム」によるケーナとシンセサイザーの演奏(よつ葉生協理事田中さんメンバー)
- ・吉田代表が作る浪江焼きそば・ポップコーン・輪投げ・ネイチャークラフト・かき氷・わたあめ・フランクフルト
- ・おにぎり・飲み物・記念品として吉田代表デザインの「タオル手ぬぐい」を皆さんに配布。

4つ目の目的として「④被災地の現状を知る」については、引き続き活動が必要であることや、高齢の被災者の行く場が限られていることから、今後何ができるのが課題となっています。

- いわき市四倉仮設住宅お茶会を開催しました。

第38回いわき市四倉仮設住宅お茶会 8月29日(土)

参加者11名 スタッフ10名 合計21名

スタッフ感想

- ① 部屋は四畳半一間に台所がついているだけなので、料理をすると熱気で暑くなり、あまり料理もしないとのこと。狭いのでエアコンをつけると寒く、消すと暑い。寝苦しいと言っていた。
- ② 福島は日照り気味。もう10日も雨が降っていない。今年はずっとの年より暑いとのこと。
- ③ 庭に水栓がないので、花に水をやる時などは台所から運ばなくてはならず、不便と言っていた。
- ④ 「前回の手芸(ランチョンマット作り)が楽しく、作りすぎて後で具合が悪くなってしまった。6枚も作ったから」と苦笑された方、親しくしている仮設の方に差し上げたとのこと、今日、その方も一緒に参加して、ありがとうと言った。

てもらった。

- ⑤ 毎回、手芸では色々なことができるから、楽しみにしている。今日の石鹸も珍しい、孫にあげてもいいわね、とたくさん作られていた。手を使うから、年寄りには丁度いい、と笑っていた。
- ⑥ 参加者の方が同じ掃除機を買ったということが分かり、盛り上がっていた。仮設に来た時にももらった家電類はほとんど壊れてしまい、買い換えが必要とのこと。
- ⑦ みらい学園に取材が来て、有名人の写真を撮ったからと参加者の方が見せてくれた。私たちに見せたかったんだろうなという思いが伝わってきて、そういう間柄になれたことが嬉しかった
- ⑧ 一か月があつという間、次はいつ来るのかと楽しみにしている、と言っていた。

小名浜海岸付近

以前は家が点在していたが、現在は更地になっている。波が高く、サーフィンをしている人もみえた。護岸工事が大規模に進み、クレーンや大型の工事車両が入り、道も通行止めや回り道が多く通りづらい。堤防は7~8m、丁度2階家くらいの高さになっていて海が見えない。景色が全く変わってしまう。

第39回いわき市四倉仮設住宅お茶会 9月5日(土)

参加者 11名 スタッフ 8名 合計19名

スタッフ感想

- ① 仮設は、隣近所は住んでおらず、夜は真っ暗。電気も来ていないようだ。
- ② 留守宅のポストには今までもガムテープが貼ってあったが、さらにひもで縛って、開かないようにしてあり、変化を感じた。何かがあったのか…
- ③ 人が減っている。草刈りなどの共同作業ができない。チラシが回ってくるが、出られない人は金銭的な負担をするようになっている。
- ④ この部屋で何かをすることも、集まるのはいつも同じメンバー。住んでいる人の中でも、こういう所には顔を出さない人もいる。
- ⑤ 毎月同じことを言うようだが、この集まりが一番の楽しみ。
- ⑥ 被災者 I さんの話…3世代で暮らしていた方が、原発事故で息子夫婦は借り上げ住宅に住むことになった。ここが狭かった為私(母)は四倉の仮設に。始めからずっと皆で一緒に生活ならそれでよかったのだが、4年も別々に暮らした今は、それぞれの暮らしが出来、再び一緒になるのはとてもエネルギーのいること。孫も大きくなり、学校も簡単にならなくなる。「もう一緒には住めない。だから、一生1人のままだと思ふ。老後を考えなければ…」原発事故により、色々なところで、色々な暮らしが、取り返しのつかない状況になっている…。

福島洋上風力相馬展示コーナーの開設

福島洋上風力コンソーシアムは、平成26年8月8日に、地元住民の皆様を始め、一般の方々に福島復興浮体式洋上風力発電実証研究事業の内容と進捗状況を広く知っていただくために、福島県相馬市の「道の駅そうま」内に「福島洋上風力相馬展示コーナー」を開設しました。

実証研究実施海域に隣接した陸上の情報発信基地として、パネル展示、大型モニタの映像により、実証研究事業の最新情報を紹介しています。

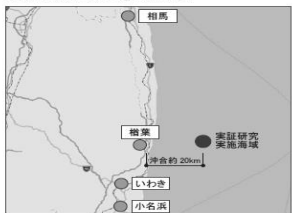


実証研究事業について

福島洋上風力コンソーシアムが経済産業省からの委託事業として推進している浮体式洋上風力発電実証研究事業は、第1期実証研究事業として、2MWのダウンウィンド型浮体式洋上風力発電設備1基と、世界初となる25MVA浮体式洋上サブステーション及び、海底ケーブルを設置しました。第2期として、5MWおよび7MWの浮体式洋上風力発電設備2基を新設します。

本実証研究事業を行うことで浮体式洋上風力発電のビジネスモデルを確立し、大規模浮体式洋上風力発電の事業展開を実現することに大きく寄与するものと考えています。更に、世界で初めての浮体式洋上風力発電のノウハウを蓄積し、海外プロジェクトに展開することによって、日本の主要な輸出産業の一つに貢献することにも繋がると考えています。

本実証研究事業の展開で、東日本大震災の被害からの復興に向けて、再生可能エネルギーを中心とした新たな産業の集積・雇用の創出を行い、福島が風車産業の大集積地となることを目指しています。



←国立公園天神岬に行ったスタッフの感想

海の上に、大規模風力発電機が見え「福島洋上風力コンソーシアム」というのだそうだ。東京電力のものではなく、実験施設とのこと。

「福島洋上風力コンソーシアム」は、経済産業省からの委託事業として、浮体式洋上風力発電実証研究事業を推進し、洋上風力発電のビジネスモデルの確立、大規模風力発電への事業展開、更に福島復興に向けた風力産業集積を目指します。(福島洋上風力コンソーシアム、ウェブサイトより)

次回お茶会は10月17日(土)です。

3. その他

- みやぎ生協から発信される「3.11を忘れない 被災地のいま」を、県連ホームページで連続掲載しています。8月8日、第24回「あれだけの災害、子どもの心に影響がないわけがない」を、9月8日、第25回「疲弊する被災者の転居を支援」をアップしました。

